

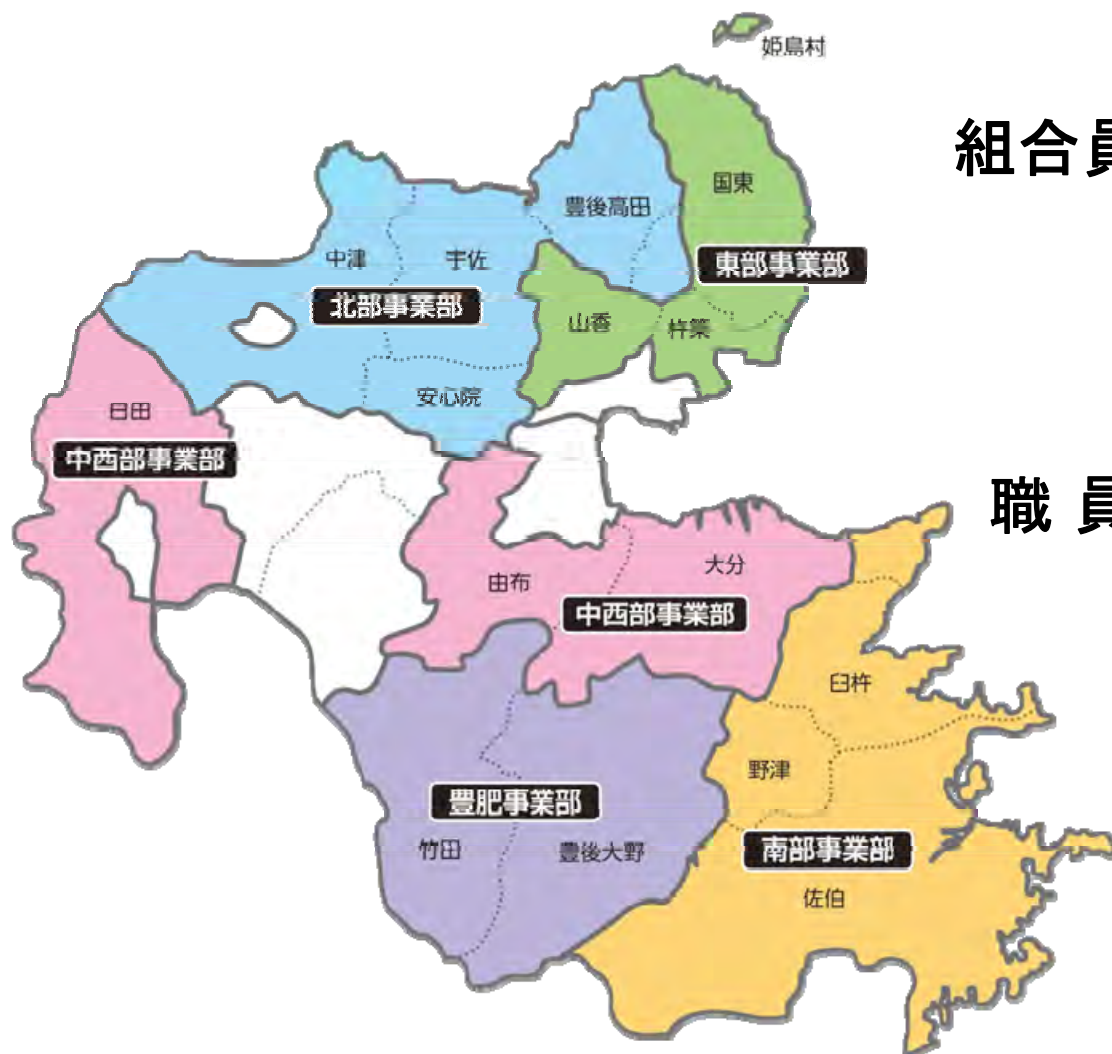


JGAP団体認証への取り組み —みんなで取り組んだ安全な産地づくり—

JAおおいた 営農部 営農企画課 水内 勇

JAおおいたの概要

平成20年 県内16JAの合併により発足
平成28年 16地域から5事業部制へ移行



組合員数	合計	103,950人
	正組合員	57,059人
	准組合員	46,891人

職員数	合計	2,092人
	一般職員	1,940人
	営農指導員	143人
	生活指導員	9人

※平成31年3月31日現在

JAおおいたにおけるGAPの取り組み

(1) 自己改革の実現

<農業振興計画>

『所得増大』『生産拡大』『地域活性化』を目標に！

(2) 販売戦略の構築

- ・ 営農指導(園芸):

安全・安心な農産物づくりと商品供給

- ・ 流通販売部門:

市場販売から契約的取引の拡大



“ GAP認証を活用した販売戦略 ”

JAにおけるGAP(団体認証)の推進！

JAが事務局。事務局を中心として、各農場、
選果場・集出荷施設をまとめ、認証取得を目指す！

団体認証のメリット

- 個人で認証取得よりも個人負担の金額を抑えられる
- 同じ行程管理を行うことで、品質管理を統一できる
- 効率化が見込める
- 役割分担を行い、認証基準を満たすことが容易

JAおおいたGAP研究会

- ・GAP認証を基軸とした組織。
- ・オリジナルマニュアルで、農場の管理項目数を約7割。

運営理念

認証取得が目的ではない！

大事な事は、継続して取り組む事。認証のために無理にやり方を変えたり、ルールを設定しない

リスクを無くす、リスクを低減する内容である事はもちろん誰でも取り組める で 継続して実施できる ルールを考える

- ✓ 高額な機器・設備を導入しないといけない
- ✓ 運用が煩雑になり新たな人材確保が必要

- ✓ 理想を求めすぎて実施困難なルール設定
- ✓ 複雑なルールを決め作業効率が落ちる

最もコストを低く、最も効率的な ルールを考える

リスク対策を実施しながら、実現可能なルールにしないと継続できない

☞ **GAPの取組⑮**
(団体認証)

JAおおいたGAP研究会

<問い合わせ先> JAおおいたGAP研究会事務局 TEL: 097-544-0310 (JAおおいた営農部園芸課)

JGAP

柑橘、みつば、いちご、大葉
白ねぎ、七草

<基本情報>

所在地：大分県大分市
構成戸数：78戸

<経営概要>

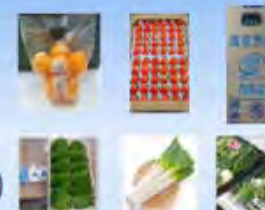
経営面積：99.7ha (柑橘：7.9ha、みつば：5.6ha、いちご：7.2ha、大葉：12.4ha、白ねぎ：58.9ha、七草：7.7ha)

<取組方針>

①本人が諦めない限り、最後まで付き合う！②誰(高齢者)でも取り組むことが出来るよう、工夫を重ねる！



平成29年度未来につながる
持続可能な農業推進コンクール
生産局長賞受賞



<GAPの取得のきっかけ>

■大分県内で発生した残留農薬事故からの立ち直りと販路拡大のため、大分県と連携してJGAP団体認証に向けた準備開始(平成23(2011)年6月)

<GAP認証取得で苦労したこと>

【認証取得にあたって】

◆取組意思のある高齢者にわかりやすいマニュアルの提示、記帳しやすい様式の必要性等、課題が浮き彫りに。

【認証取得後】

◆3品目が団体認証を取得 → 審査認証費用を抑えられないか。

【生じた課題への対応】

- ◆マニュアルは、図を多用、文字を大きくするなど高齢者へ配慮。
- ◆生産者が慣れたやり方、様式をできる限り活かす。
- ◆農場・倉庫等の片づけと整理整頓！



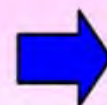
◆いちご、みつば、柑橘の3団体を統一し、団体事務局の運営効率化

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

◆柑橘は、GAP認証を取得し団体として取引先と協議することにより高単価商品としての販路拡大(糖度等の品質基準も有り)や西日本全体へ販売エリアが拡大。

◆出荷規格の交渉もより良い条件で進めることが可能となり、いちごについては規格が簡素化し、生産者のバック詰め作業効率が2倍以上に効率化

(平成24(2012)年度：7,840g/時間 ⇒ 平成25(2013)年度：15,000g/時間)



【従来の2段詰めバック】

【1段詰めバック】

◆いちご、みつば、柑橘の3団体を統一して団体認証を取得することにより、団体事務局の審査費用は45万円→15万円、審査対象農場数の削減により農場毎に負担する審査費用は約4万円→2万円に削減

◆青果物であれば、どの品目でも追加・拡大できる体制を確立！

(29年度に3品目追加取得。30年度はさらに2品目の追加取得に向け、取り組み中)

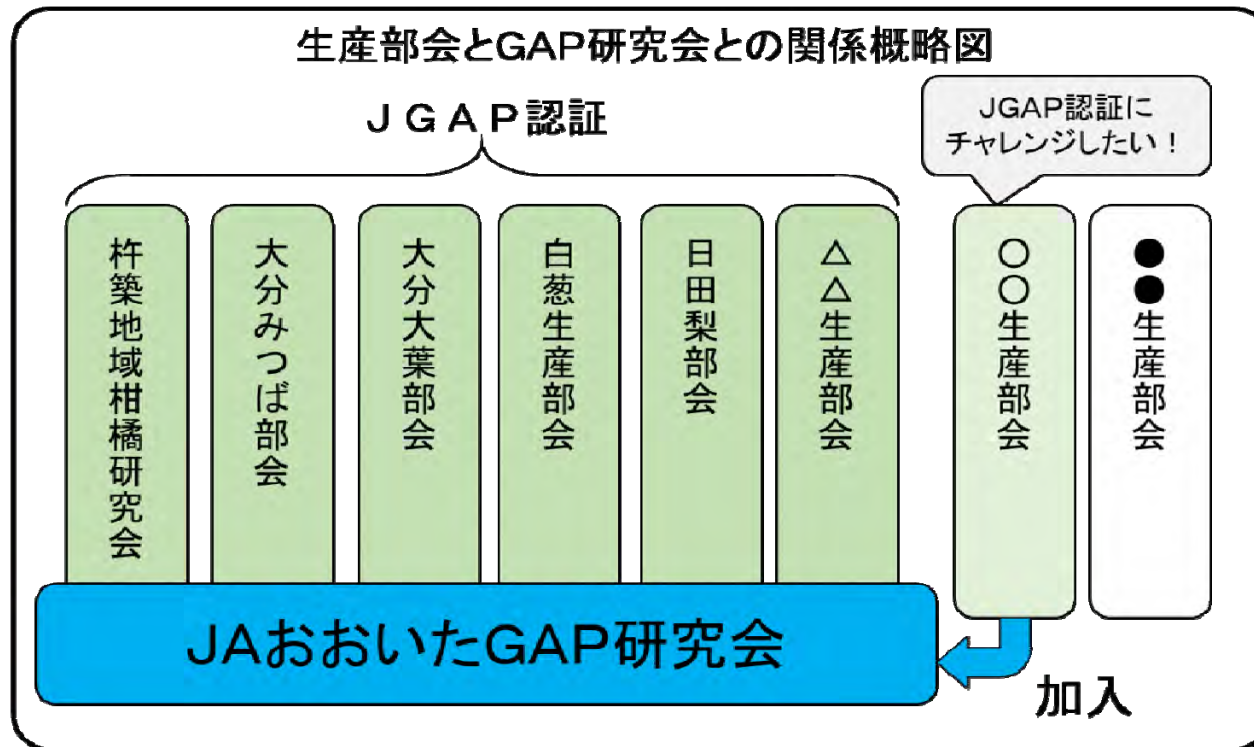
J A おおいた G A P 研究会は、 **G A P**に取り組む産地・生産組織と 生産者を応援します！

新たな販路拡大と一緒に目指しましょう！

- GAP普及大賞2016
- 持続的可能な農業推進コンクール
生産局長賞受賞
- 大分県農業賞 最優秀賞受賞
- JA営農指導実践全国大会
審査委員特別賞



活動の概要 ①



出典: 日本農業新聞



GAPで取組む農作業安全講習会 次第

日時: 平成28年12月5日(火)
会場: JAおおいた 杵築柑橘産地2階

- 挨拶
- 講習内容
 - (1) GAPで取組む農作業安全 ～「当たり前の日常」のために～
講師: 安心農業株式会社 代表取締役社長 藤井 隆雄 氏
 - (2) 万が一の応急処置等について
講師: 杵築消防署 消防長代理 〇〇 氏
消防隊員 〇〇 氏
 - (3) 農作業に伴う事故防止について - 資料No.3
講師: 杵築日出間亭 交番課 課長 〇〇 氏
 - (4) JAグループ大分からのお知らせ - 労災保険について
- 閉会

※受講証明書が必要な方は、後日JAを通じて送付いたします。
JAおおいた本部事務局までご連絡ください。



GAP手法で安全な作業を JA大分中央会 JAおおいた講習

「大分 JA大分中央会(県域担い手サポートセンター)JAおおいた」などは、5日(火)日田市、杵築市内、(JA)農業生産工程管理)で取り組む農作業安全、当り前の目標のために」と題し、安全に農作業を手

ヤレンジてほしい」とあいさつした。安心農業の藤井隆雄社長が「Q&Aで取り組む農作業安全、当り前の目標のために」と題し、安全に農作業を手

JAグループ大分

JAおおいた本部事務局までご連絡ください。

活動の概要 ②



杵築柑橘産果場で説明を聞く参加者

部会全体で海外輸出に力を入れているJAおおいた日田梨部会は、GAP（農業生産工程管理）認証取得に取り組む。部会は85人が在籍。全員が、来年1月に予定されている審査での取得を目指す。

輸出にらみ産地底上げ

GAP認証

一斉取得へ全員が結束

JAGAP研究会事務局は7月中旬、杵築市内で視察研修会を開いた。JA日田梨部会役員や事務局、行政関係者ら18人が参加。参加者らは杵築柑橘（かんきつ）産果場と、GAP認証を取得した生産者の倉庫や農薬庫を視察し、認証への取り組みを学んだ。

部会の梶原智徳部会長は「産地として、もう一皮むけたいと考えている。諸外国はGAP認証を取得した上で輸出しているのだから、必ず審査に通らなければならない」と意気込んだ。

事務局担当者は「現状の農家のやり方を生かし、知恵と工夫でGAP認証が取得できるように、JAと指導員も一体で取り組んでいく」と力を込めた。

（おおいた）

JAおおいた日田梨部会



GAPの取り組みの説明を受ける視察者

先進GAP事例紹介
静岡県の視察受け入れ

JAおおいた

【おおいた・北部】静岡県とJA静岡中央会は9月上旬、JAおおいた管内で農業生産工程管理（GAP）の取り組みが進んでいる施設を視察した。J（日本版）GAPの団体認証を受けた、JAGAP研究会北部いちご支部代表の、柳豊潤やJA貝崎集出荷施設内の白ネギの集出荷体制を見学した。JA静岡中央会と静岡県が共同で視察をするのは初めて。また、大分県への来県も初。

静岡県のGAPの取り組みは、生産者個人が実需者の要請を受けGAPを導入する個人認証が盛ん。個人認証を維持するには生産者にとってコスト面などでハードルが高く、実需者が求める出荷数量を確保するのも苦慮しているのが現状だ。そこで団体認証を取りまとめる受け皿としてJAが機能しているJAおおいたの事例に注目した。

同研究会事務局（JAおおいた営農指導員）職員は「JAが受け皿となれば、生産者の所得安定化につながることで、維持コストの低減や情報共有もできる」と利点を強調する。

大分県農協北部いちご部会員45件のうち、同研究会でJAGAPを導入しているイチゴ生産者は5件。それぞれが広い栽培面積を抱え、管内のイチゴ生産をけん引している。また、JAへのイチゴの出荷形態の8割が実需者との契約販売で成り立っている。

現状の市場取引では、JGAP導入による農産物への付加価値の効果は現れていないが、農産物の輸出の安定化にはGAPの取り組みが必要となると考え、周知活動も含め強化していく。

団体認証取得の経緯

＜平成24年度＞

- ・ 南部共販いちご部会GAP研究会が、県内初となる取得。

＜平成25年度＞

- ・ 大分みつば部会、柑橘研究会GAP部会(ポンカン)が取得。
翌年、不知火生産者が柑橘研究会GAP部会に加わり取得。

＜平成27年度＞

- ・ 3団体あるGAP部会(いちご／みつば／柑橘)に統一。
「JAおおいたGAP研究会」を設立。1つの団体として、取得。

＜平成29年度＞

- ・ 大葉／白ねぎ／七草の3部会が加入し、取得。

＜平成30年度＞

- ・ 梨／トマトの2部会が加入、カボス／ニンニクを品目追加取得。

JGAP団体認証は、160農場、12農産物取扱施設に拡大！

JGAPの普及状況

認証農場数

**H29年度
全国第9位
(青果物第5位)**



**H30年度
全国第6位
(青果物第2位)**

	29 年度	30 年度
認証農場数	78 農場	160 農場
認証農場面積	98.7 ha	221 ha
認証農産物量 販売	2,022 t	5,885 t
認証農産物高 販売	2,500 百万円	3,598 百万円



GAP取得した梨で摘果作業をする梶原部会長（大分日田市で）

（おおい）

JGAP®日本一

**指導員が巡回
160農場で認証**

JAおおいの研究会（農業生産
工程管理）研究会は2018年
度、JGAP団体認証を持つ農場
数を前年度から100増やした。
総数は160農場で、JAによる
JAおおいの研究会
と、JA別では全国一のJGAP
団体認証組織になった。JA営農
指導員の割合がGAP指導員資格
を持ち、県と連携した体制を強化
して指導に取り組んだことが奏功
した。

県と連携奏功

18年度は従来のイチゴな
どに加え、梨、トマト、ニ
ンジン、カボスで新たに認
証を取得。JGAP認証の
農産物販売高はJA全体で
34億円に達した。これは、
JAの青果物（野菜・果
樹）販売高の2割弱を占め
る水準に当たる。

認証取得を促すため、
JAの地区事業部ごとに事
務局を設置することとし、
JA営農指導員が巡回指導
をきめ細かく行い、農家の
レベルアップを支えた。農
家の目合わせや、労働安
全に関する外部講師を招いた
研修会をJA全体や事業
部ごとに繰り返し開いた。
認証審査費用も減らした。

日田梨部会は18年度に85
農場が認証を取得した。梶
原部会長は「10年くら
い前からGAP認証の要望
がスパーからあったと
活動のきっかけを説明す
る。今後は「20年の東京五
輪・パラリンピックを境
に、要望はさらに強くな
る」と見通す。日田梨
は輸出もしているため、将
来約は国際水準のグロー
バルGAPなどを得るとも
視野に入れる。

研究会はこれまで23団
体、205人の視察研修を
全国から受け入れており、
GAP普及にも貢献してい
る。

団体認証審査費用の軽減

個別認証



約80,000円
／年

団体認証



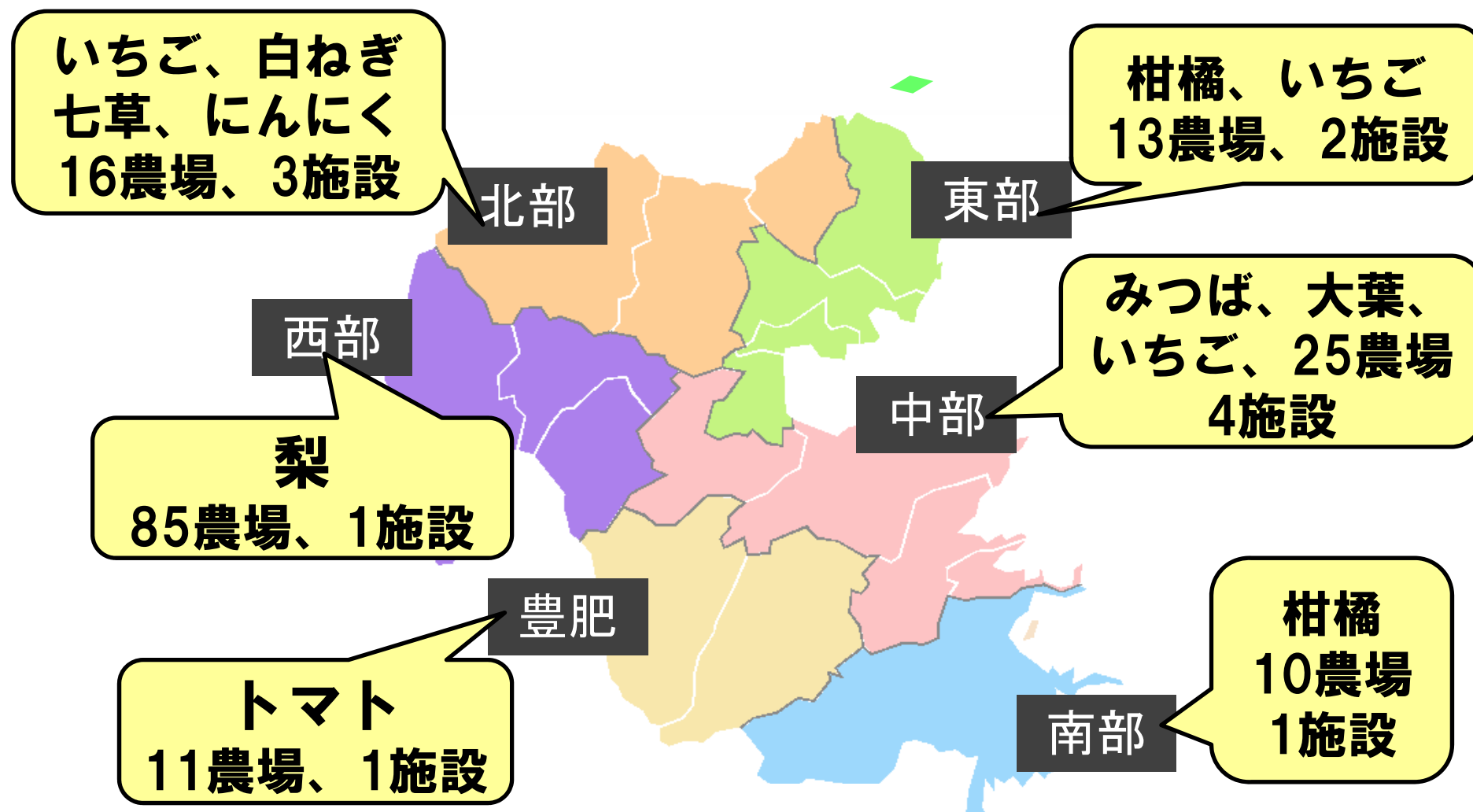
部会ごと認証
1生産者あたり:
約 40,000円／年

H27年度研究会設立時
1生産者あたり:
約20,000円／年

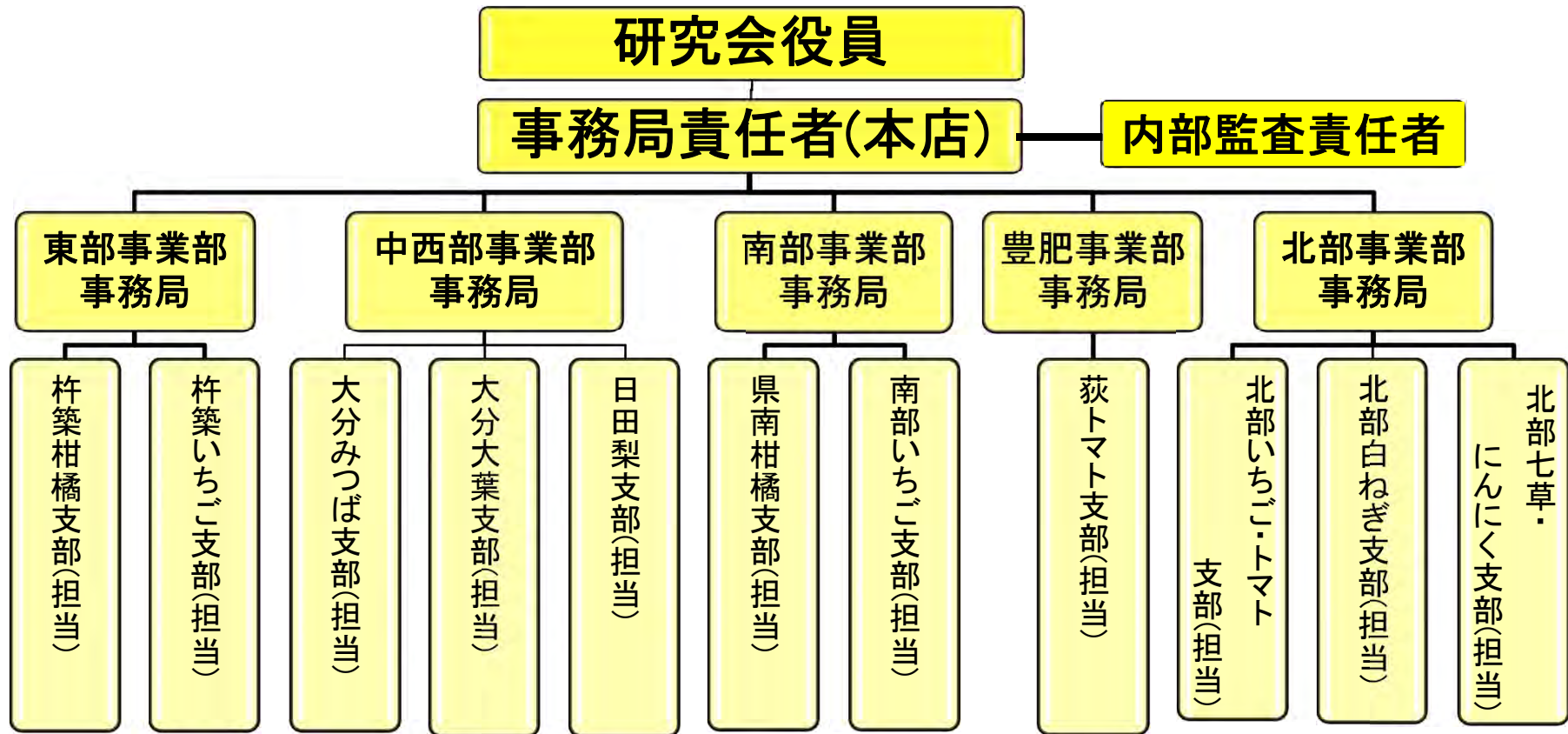
H30年度 審査負担金
1生産者あたり: 10,000円／年

JGAP団体認証取得状況

全県に跨がる巨大組織に成長



研究会組織・事務局体制(H30年度～)



※各事業部に「事業部事務局(営農企画課職員)」、各品目支部に「品目担当(営農指導員)」を設置。

※各支部に「商品管理」、「回収対応」、「施設管理」、「肥料管理」、「農薬管理」、「労働安全」、「労務管理」の各責任者を設置。

事務局指導体制 ①

取り組みを始めた当初より、JAと県が一体となって指導。
資格保有者を増やし、円滑な指導・運営体制を構築。
県内で毎年3回GAP研修会を開催し、資格保有者の増員。

＜現在＞

※延べ人数

JAおおいた GAP指導員 78名、内部監査員 22名

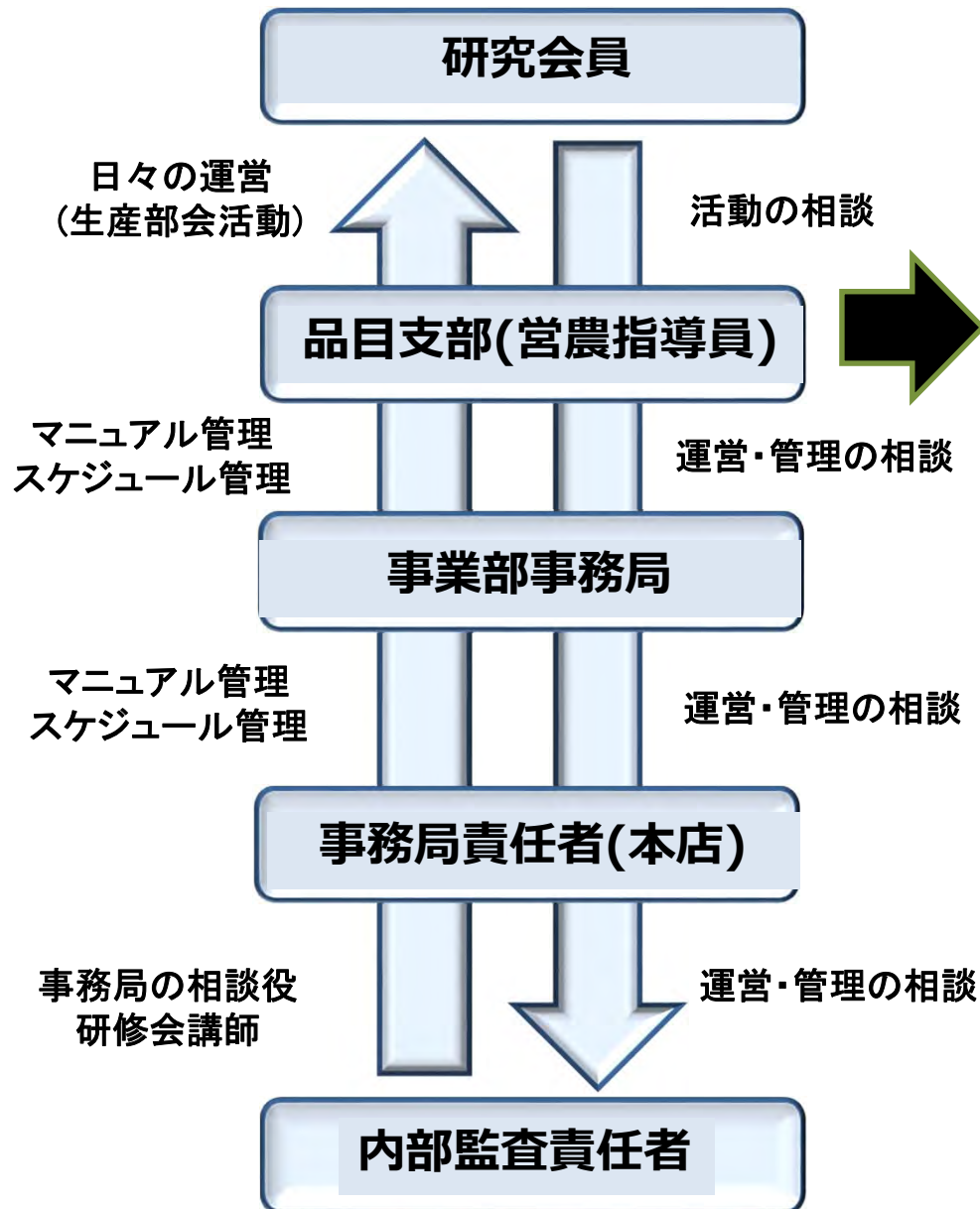


事務局運営 10名（うち内部監査員資格保有5名）

※ 内部監査時は、50名程度で活動

※ 導入時の指導、内部監査など振興局と一緒に活動

事務局指導体制 ②



支部毎に、

- 支部責任者
 - 農薬責任者
 - 肥料責任者
 - 商品管理責任者
 - 商品回収責任者
 - 労働安全責任者
 - 労務管理責任者
- を設置

事務局は

- 研究会役員
 - 事務局責任者
 - 各事業部事務局
- で構成

大分県

- 広域普及指導員
 - 県庁担当者
 - 各地域安全・安心担当
 - 各地域品目普及指導員
- が援助

時代の変化に対応するGAPの取り組み

↑ 輸出先に対する商談材料

↑ 大手量販店、メーカー等との商談材料

→ 東京五輪の必須要件

→ 農薬取締法改正（農薬取締法の遵守）

⇒ 食品事業者のHACCP義務化（2021.6）

更なるJGAPの推進を目指して

生産者及び関係者説明会

○事業部別に研修会を開催。

・大分味一ねぎ(本年度見込)

改善作業の提案と情報共有

○現地指導の
レベルアップ。

流通業界へのPR

○売込み勉強会開催。



事業部別研修会



最初是一緒に指導



慣れてきたら任せる



東京事務所担当

〇〇ストア 青果チーフ勉強会(東京事務所)

研究会の課題

高齢生産者の離農、脱退

経験豊富なベテラン指導員の減少、経験不足

JGAP指導員基礎研修受講者のペーパードライバー化

JGAP基準書の改訂

大規模部会の加入

解決に
向けた
取り組み

現場で指導できる
JGAP指導員の育成が必要

組織の垣根を超えた
現場での指導経験の共有

認証を目指す生産者の
育成も兼ねて取り組む

指導員向け研修の実施

—ペーパードライバーの解消に向けて—

- ① トラブルは推進の最大のチャンス
- ② 現状のやり方を活かした取り組み事例
(お金や手間を掛けない)
- ③ 生産者のメリット

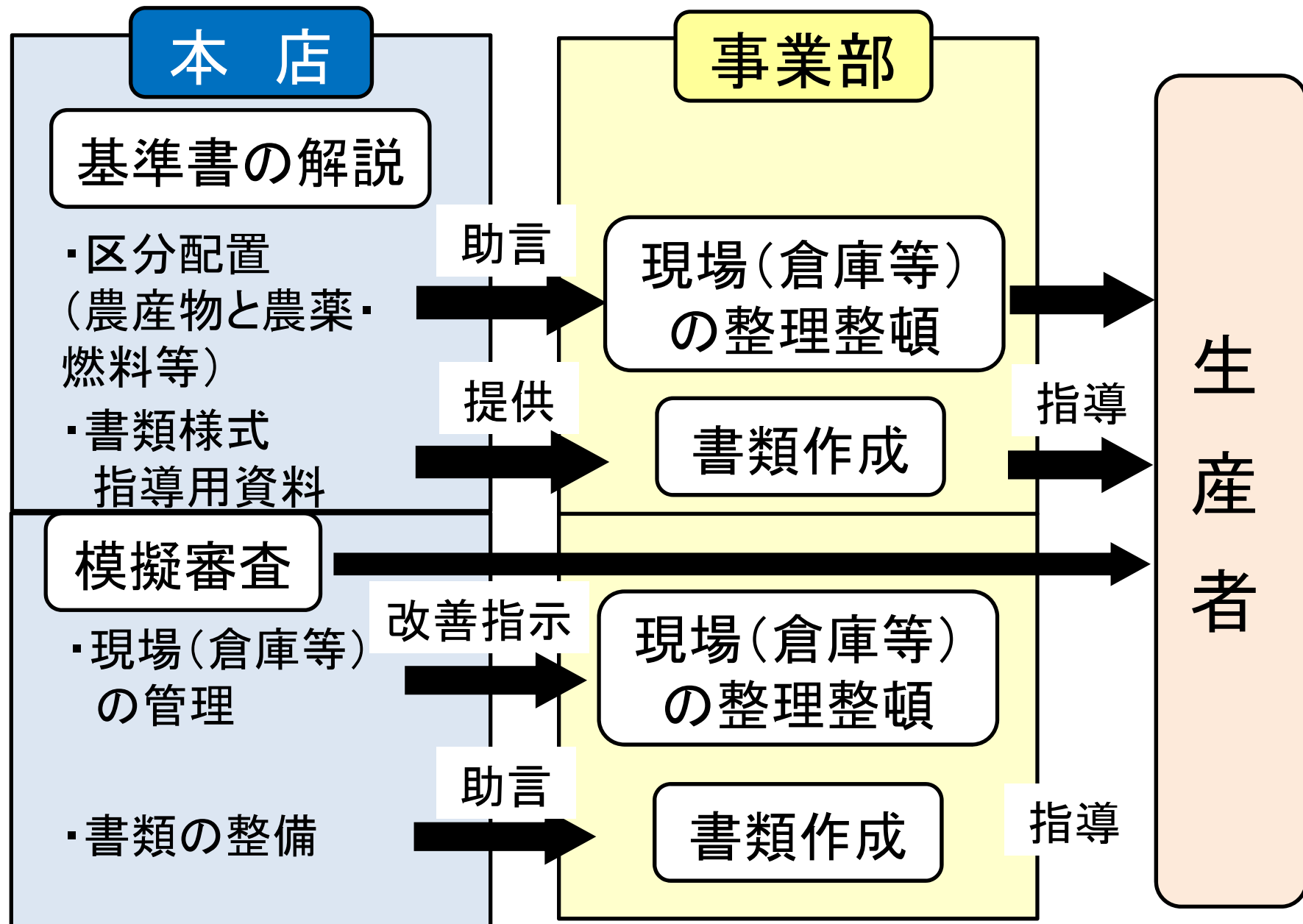
**GAPは
商談材料**

— 基礎研修受講者(課題解決研修) —

- ① **現場写真**を使ったリスクの検討
- ② 収穫作業で起こるリスクの検討
- ③ 農場倉庫での**模擬審査**
- ④ 新しいJGAP基準書での審査結果

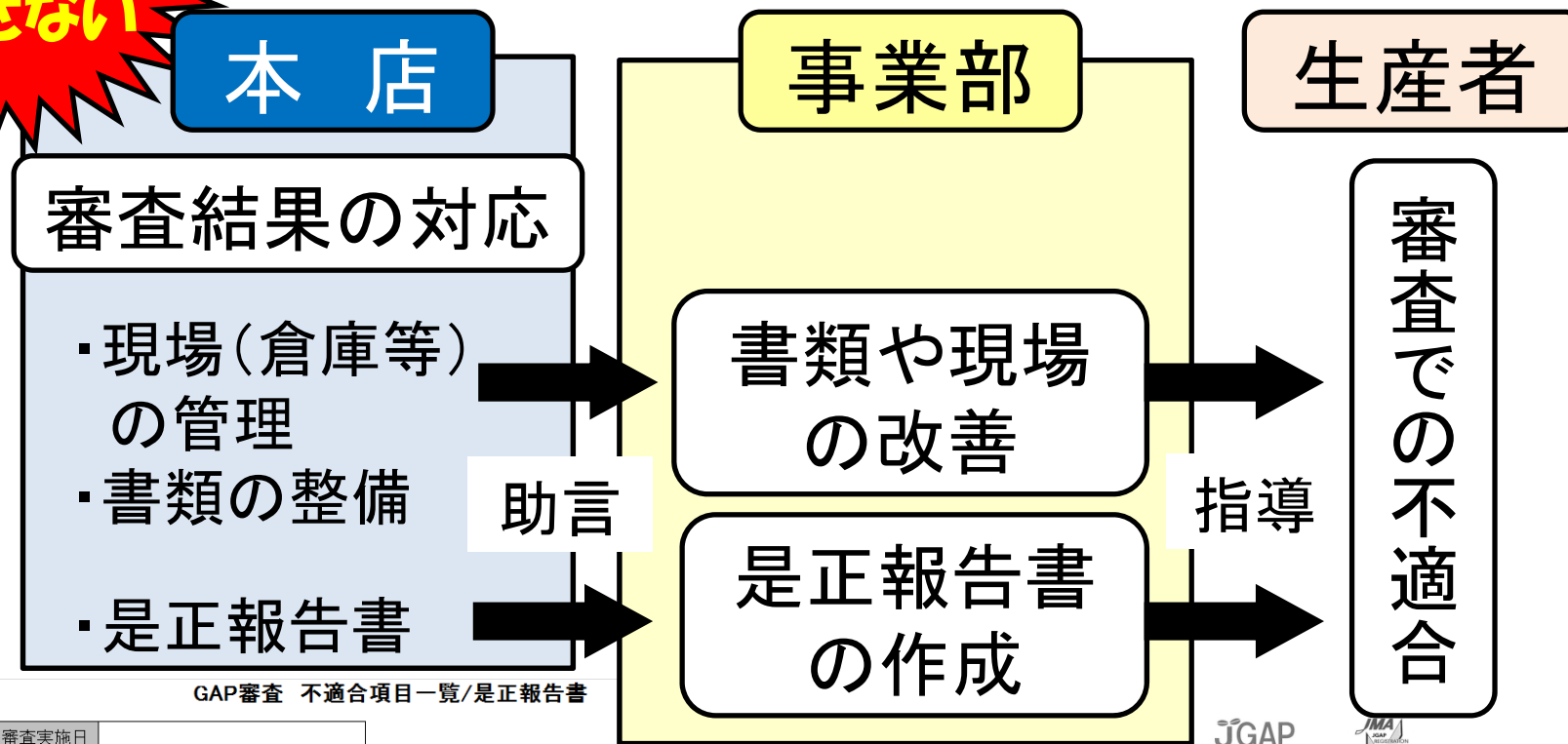
**参加者全員
で学び合う**

現場での担当指導員育成 ①



**100点満点を
目指さない**

現場での担当指導員育成 ②



GAP審査 不適合項目一覧/是正報告書

審査実施日

受審者(農場) 氏名 住所
TEL FAX

必須	重要	努力	項目番号	不適合内容	要帳票	要写真	是正内容 (詳細は別紙「詳細内容」をご使用下さい)	添付資料 番号

JGAP 認証書

審査・判定の結果、以下の内容で、貴農場がJGAPの認証を取得したことを証明いたします。

認証農場

【認証の種類】 飼料認証

【認証農場住所】

【農場所在地地図】

【認証対象の農産物分類と品目】

【基準と版】 JGAP 畜養物2015

【生産工程カテゴリー】 畜養物(鶏卵、収穫、殺菌)

【登録番号】

【審査機関番号(受理番号)】 140

【初回認証日】

【有効期限】

一般社団法人日本畜産振興会 事務局 認証センター 井上 直

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 住友商事ビル14階

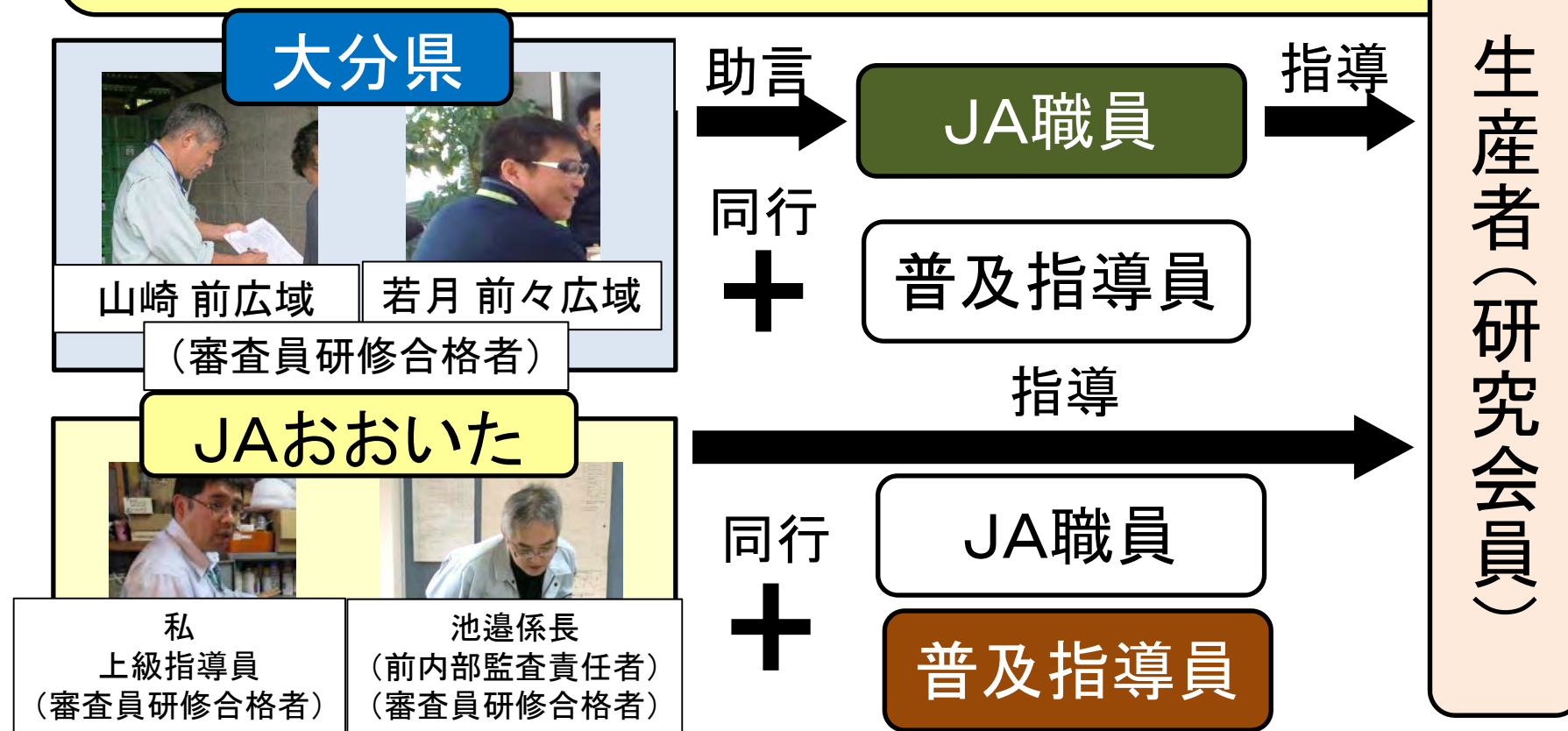
研修参加者からの意見

- 写真や農場倉庫の利用は、若手も身につきやすい。
- グループワークは、考える機会や気付けなかったリスクの発見に繋がった。
- GAP指導は満点狙いではなく、ギリギリ合格でも良いことがわかった。
- 模擬審査で、管理が良すぎるとあら探しになる審査員心理が理解できた。
- JGAP基準書の読込みをもっとすれば良かった。
- 改善前後の比較写真も見てみたかった。

組織の垣根を越えた指導員の育成

指導を通じた指導員の育成と情報共有

指導では、ベテランが、指導の未経験者を
県とJAの垣根を越えて育成。



現地指導の例 ①

生産者のやる気を下げない指導

できるだけ褒める

生産者独自の創意工夫。

→優良事例として、他の生産者や関係者に写真で紹介。

- 「惜しい、あと少しで合格」を殺し文句に。

宿題を残さない

- 機械一覧表を指導の際に、一緒に調べて作成。
- 期限切れ農薬は、指導の際に一緒に分別。
- 一緒に汗をかくことで、生産者の申し訳ないという
気持ちをやる気に転換。

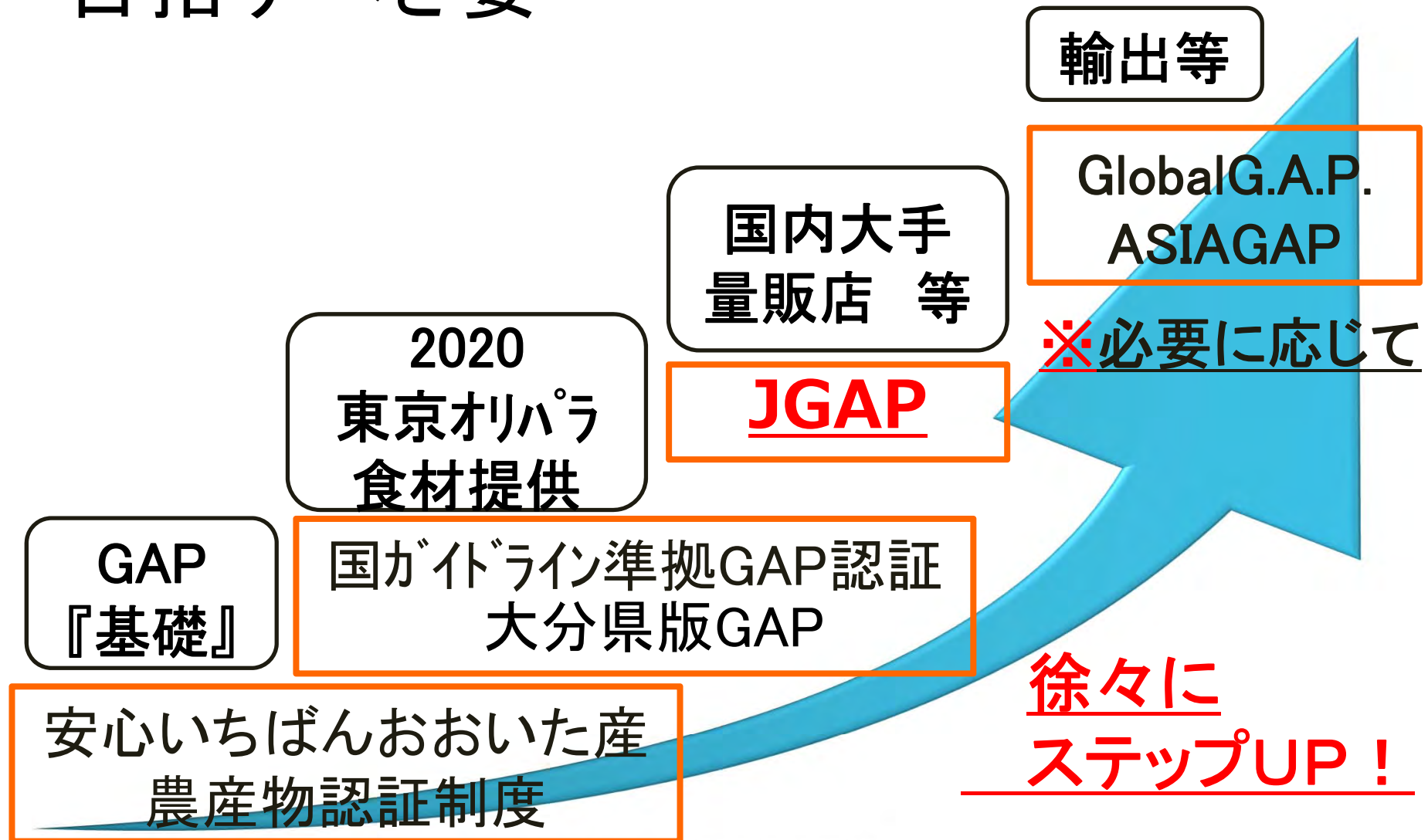
現地指導の例 ②

生産者のやる気を下げない指導

一緒に考える

- 全体で考えた方が良い取り組みは、検討事項と指摘も。
 - 水質検査（個人毎でなく、水源毎にまとめて）。
 - 農薬空容器の処分（回収日の検討）。
- 改善方法は生産者毎に無限にある。
 - 生産者任せにして怒られた。
 - 具体的な改善方法を提案した。
 - 取り組みへの理解が進んだ。

目指すべき姿



求められるGAP認証を取得支援できる体制を構築！



ご清聴ありがとうございました！

